

奨励賞

# サポート体制を整備し、ヘルスキーパー制度での雇用拡大を図る

アイシン精機株式会社



アイシン精機は愛知県刈谷市にある。

## 企業プロフィール

アイシン精機株式会社

代表者：取締役社長 豊田幹司郎

〒448-8650 愛知県刈谷市朝日町2-1

TEL0566-24-8064 FAX0566-24-8844

## 業種および主な事業内容

輸送用機器の製造を主に、住生活関連商品、エネルギー関連商品、福祉関連商品などの開発・製造・販売

## 従業員数

12,424名（平成16年6月現在）

うち障害者数165名（重度障害者数91名・重複障害者数5名）

<内訳>

視覚障害者11名（うち重度5名） 聴覚障害者62名（うち重度54名）

肢体不自由者59名（うち重度20名） 内部障害者25名（うち重度13名）

知的障害者6名、その他の障害者2名

## 事業所の概要と障害者雇用の経緯

昭和24年設立の愛知工業株式会社が昭和40年に新川工業株式会社と合併、社名をアイシン精機株式会社に変更。

自動車の走行系・駆動系・機関係・車体系の部品を主に、トヨタベッド、シャワートイレなどの住生活関連商品、ガスヒートポンプエアコンなどのエネルギー関連商品、電動車いすや介護ベッドなどの福祉関連商品などの開発・製造・販売を行っている。

障害者雇用は、当初主に聴覚障害者を雇用していたが、平成7年に下肢障害者、平成9年に知的障害者の雇用を開始した。平成11年には弱視の障害者を、平成12年に全盲の障害者をヘルスキーパーとして雇用するなど、障害者の雇用拡大、職域拡大に取り組んでいる。

# 「障害者緊急雇用安定プロジェクト」を契機に 視覚障害者雇用を具体化

## 30年以上の実績がある障害者雇用

アイシン精機が障害者雇用を開始したのは、30～40年も以前のことである。製造業の企業として現場作業に比較的受け入れやすい聴覚障害者から雇用を開始した。その後、下肢障害者や知的障害者、さらに内臓疾患により障害者に認定され職場復帰した内部障害者、糖尿病や緑内障・白内障により障害者に認定され職場復帰した視覚障害者などを雇用してきた。

このようにさまざまな障害者の雇用に関し豊富な実績がありながら、平成11年までは職場復帰者以外の外部の視覚障害者については雇用経験がないまま経過していた。

平成10年、国の緊急経済対策の一環として、「雇用活性化総合プラン」が策定され、その中の「障害者緊急雇用安定プロジェクト」が11年2月から実施されることになった。このプロジェクトには職場実習とトライアル雇用という、障害者雇用を模索している事業主にとって有効な施策が提供された。これらの施策は新たな視覚障害者雇用を検討していた同社にとって1つの転機となった。

一方、社内での健康診断の問診で、腰痛や、OA機器の普及による目の疲れ・肩こりを訴えるものが増えており、業務の効率向上のためにもその対策が大きな課題となろうとしていた。

## 社員の健康維持と障害者雇用を目的に マッサージルームを設置

そこで考え出されたのが、「障害者緊急雇用安定プロジェクト」のトライアル雇用を活用しつつ、社員の健康状態の悪化を防止する方策である。

具体的には、社員の健康の維持・増進と業務効率の向上、および障害者の雇用拡大と社会への貢献を目的に、あん摩マッサージ指圧師の資格を持った視覚障害者をトライアル雇用を使って実習生として受け入れ、マッサージルームを社内を設置することである。

まず、平成11年7月～12年1月までを試行期間とし、中途障害の弱視で、名古屋盲学校卒業後4年の実務経験のある小島邦靖さんをトライアル雇用を使い、実習生として受け入れるとともに、マッサージに必要な器具・備品をリースして、マッサージルームを開設、利用した社員の声を聞くことにした。

その結果、「腰や肩の調子がよくなった」「肩こりが減った」などの声が多く、マッサージの効果が確認できたので、11年12月に正式にマッサージルームの設置が決定された。



マッサージ中の小島邦靖さん。「腰や肩の調子がよくなった」「肩こりが減った」など、評判も上々だ。



社員への受け入れ教育

本人への教育研修

設備改善

支援機器導入

職域・能力開発

介助者

意欲・意識改善

障害者雇用の推進に尽力

# マッサージルーム用器具・備品、 視覚障害者用OA機器を装備

## 利用予約と利用料回収の システム化を図る

マッサージルームの設置の決定を受け、直ちに小島さんをヘルスキーパーとして正式採用するとともに、平成12年2月のマッサージルームの開設に向けて、必要な器具・備品類を改めて購入するとともにマッサージルームの改修工事に入った。

そして、ヘルスキーパーの事務的負担をできるだけ軽減するため、利用予約は社内内のパソコンLAN上で予約できるようにするとともに、利用料の支払いも同じくLANを活用、月々の給料から自動天引きできるように工夫した。ただし、受付処理からカルテ作成までの事務処理については拡大文字変換ソフトや画面読み上げソフトをパソコンに装備することでヘルスキーパーが自ら行うこととした。



音声変換ソフト付きのパソコンを使い、データを入力、受付処理をする（左は文字拡大器）。



拡大読書器を使って利用状況などデータを確認する小島さん

## 利用者の増加を見込み、 全盲の障害者を新規採用

試行期間における反響の高さからもマッサージルームが正規に開設された場合、利用者が増加することが十分予想された。そこで、同社ではヘルスキーパーを増員することにし、12年3月に名古屋盲学校卒業予定の全盲の榎田いずみさんを採用、4月からヘルスキーパー2人体制となった。

榎田さんの採用に伴い、弱視の小島さんにはあまり必要がなかった、職場や通勤上の安全対策がより重要な問題となった。当初、榎田さんは職場近くの会社の単身者寮から徒歩で通勤することになり（現在は愛知県江南市から電車通勤）、職場までの歩行経路の要所に点字ブロックを敷設するとともに、途中の交差点に音響式信号機を設置することになった。

マッサージルーム開設にあたっては、下の表のように総額1,000万円を超える費用を要することになったが、その一部を障害者雇用納付金制度に基づく助成金の活用で経済的負担の軽減に努めながら、整備を図ることになった。

### マッサージルーム開設に要した費用

マッサージ室の改修費用	537万円
点字ブロック敷設	88万円
音響式信号機設置	114万円
マッサージベッド（2基）	52万円
パソコン関係（ソフトを含む）	91万円
マッサージルーム器具・備品類ほか	242万円
合計	1,124万円



寮から職場までの歩行経路に敷設した点字ブロック



交差点に設置した音響式信号機

# 職場環境の整備を進め、 支援体制をさらに強化

奨励賞

## 要望に応え刈谷地区以外にも マッサージルームを拡大

アイシン精機の事業所・工場は本社のある刈谷地区が中心であるが、それ以外に愛知県内の安城、西尾、碧南、半田、豊田の各市に分散している。マッサージルームは、刈谷地区からスタートしたが、当然のことながら他の地区からもマッサージルーム設置の要望がある。このような要望に応えるため、平成14年から最も要望が多い西尾地区で週1日だけマッサージルームを開設している。

マッサージルームの利用時間は、午前10時から午後7時までだが、一般組合員については昼休み（12時から1時半）と午後5時以降と時間制限があり、その他の時間も利用できるのは管理職とフレックスタイム勤務者だけである。そのため、どうしても昼休みと午後5時以降の時間に集中しがちとなり、この時間帯の稼働率は90%以上となっている。その点を除けば、現在稼働率は、平均60%前後を維持しており、かなりうまく機能していると考えられる。ただ、実際にはリピーターがかなり多いため、もっと利用者の実数を増やすことも今後の課題の1つであろう。



点字誘導シールが貼付されたエレベーター（工場事務棟内）



エレベーター内にはガラス張りで車椅子利用者が乗ったままの位置で降りる階を確認できるように工夫されている（工場事務棟内）。



エレベーター前の階段にも点字誘導シールが貼付されている。



工場事務棟内の点字びょうブロック

## サポート体制を整備、 さらにマッサージサービスを向上

アイシン精機では、視覚障害者のヘルスキーパーが1人で通勤、作業ができるように、職場内外の環境整備や一連のマッサージ治療に至るまでさまざまな改善・支援体制をとってきた。さらに、平成16年5月、マッサージルームが新築の工場事務棟に移転したのを契機に、工場事務棟内の要所に点字びょうブロックの敷設、点字誘導シールの貼付など、職場環境を一層整備して、自立してマッサージ治療に専念できるように支援体制を強化している。

また、聴覚障害の利用者ともスムーズにコミュニケーションできるように、あらかじめ決められた言葉をカードに文字と点字の両方で記入しておき、そのカードを選択・提示することで、双方のコミュニケーションが図れるように工夫した。

マッサージ治療にかかる前には、利用者の過去の利用状況や身体の状況を確認し、利用者にあった適切な治療方法をとるようにしている。こうした利用者ごとにマッチした、よりきめ細かなマッサージ治療を施すように、社内のマッサージルームらしい一層のサービスの向上を図っていくようにしている。

### マッサージルームの最近の利用状況 （平成16年2～4月）

	2月	3月	4月
刈谷地区	205名 / (324名)	230名 / (378名)	178名 / (261名)
西尾地区	15名 / (24名)	14名 / (24名)	16名 / (24名)

（ ）内はフル稼働した場合の人数

### マッサージルームの利用料

20分コース400円、40分コース800円  
タオルのクリーニング代込み

社員への受け入れ教育

本人への教育研修

設備改善

支援機器導入

職域・能力開発

介助者

意欲・意識改善

障害者雇用の推進に尽力

## 改善・取り組みの実例

問題点・課題	改善策と効果
全盲の障害者の通勤が困難だった。	職場までの歩行経路上の要所に点字ブロックを敷設、途中の交差点に音響式信号機を設置。通勤しやすくする改善措置を行った。
視覚障害者にとって、通常のパソコンの使用は難しい。	弱視の障害者には拡大文字変換ソフトなど、全盲の障害者には画面読み上げソフトなどを購入、パソコンに装備することで、受付処理からカルテ作成までスムーズにできるようになった。
利用料の支払いや利用予約などの事務処理は視覚障害者には負担が大きい。	社内LANを活用することで、利用予約をできるようにするとともに、利用料の支払いもこのシステムを使い、利用者の給与から自動天引きできるように工夫したので、ヘルスキーパーの負担にはならない。
聴覚障害者とのコミュニケーションが困難だった。	必要とされる言葉をあらかじめ文字と点字で記入したカードを用意して、それを選択・提示することで、相互のコミュニケーションが図れるようになった。
腰痛、目の疲れ、肩こりを訴える従業員が増えていた。	マッサージルームの開設によって、「腰や肩の調子がよくなった。肩こりが減った」などの声が多く、マッサージの効果が確認できるようになった。



さわやかふれあいセンター 福祉支援グループ  
障がい者支援チーム ヘルスキーパー  
小島邦靖さん(45歳)

大学卒業後、企業に就職したが、勤務中に弱視となり、マッサージの資格を取るため、名古屋盲学校に入学。資格取得後、4年間実務を経験。平成11年にアイシン精機のヘルスキーパーに応募、トライアル雇用を経て、平成12年に正式採用される。ヘルスキーパーの仕事は働きがいがあり、大変満足しているとのこと。



さわやかふれあいセンター 福祉支援グループ  
障がい者支援チーム ヘルスキーパー  
榎田いずみさん(29歳)

平成12年名古屋盲学校卒業後、アイシン精機のヘルスキーパーに正式採用。現在、結婚し、愛知県江南市から電車通勤。

## 今後の課題&挑戦

### 新しい利用者をいかに増やすか

現在、1ヵ月当たりのマッサージルームの利用者の延べ人数は300人未満にとどまっており、社員の絶対数からすると、まだまだ少数といえる。利用者はリピーターが多く、それだけ固定ファンが付いているともいえるが、逆にいえば、新しい利用者を開拓することが今後の課題となる。

そこで、社内LANや社内報などを使って、今まで以上に、マッサージルームの利用を広く呼びかけていく方針だ。

### 利用状況や要望によっては、 マッサージルームの拡大も検討

そうした広報活動の結果、稼働率がもっと向上したり、あるいは現在マッサージルームが設置されている刈谷や西尾以外の地区から開設要望が増えたりした場合には、ヘルスキーパーの増員や他地区への拡大も前向きに検討することになっている。

利用者の拡大には、やはり口コミが一番ものをいう。40分コースで800円（20分コース400円）という利用料金は、外部のマッサージ治療院を利用する場合に比べて格安なだけに、利用者は今後、確実に増加していくに違いない。マッサージルームの拡大は、おそらくそう遠い先のことではないであろう。



マッサージルームの利用者には、リピーターが多い。施術効果や低料金が好評だからだ。今後の課題は、新しい利用者を開拓すること。小島さんたちの一層の頑張りに期待がかかる。

### グループマネージャーが語る

## 社員の健康維持・向上に マッサージルームは確実に貢献しています

### 社員の健康状態の改善を実感

腰痛や目の疲れ、肩こりを訴える社員が増えましたが、マッサージルームを開設したことによって、これらの問題は確実に改善してきていると思います。社員の疾病率が改善されたり、作業効率が高まったりといった具体的な数値が出ているわけではありませんが、「肩こりが減った」「腰や肩の調子がよくなった」といった利用者の声が多く、このことから、社員の健康維持・向上にマッサージルームが貢献しているのは間違いのないといってよいでしょう。

### 利用者の身体状況に合わせた きめ細かな治療が評判を呼ぶ

視覚障害者がマッサージ治療に専念できるように、さまざまなサポートをしてきましたが、そうした会社

さわやかふれあいセンター  
福祉支援グループ  
グループマネージャー  
柴田正彦さん



の支援体制もさることながら、彼ら自身の努力も見逃せません。マッサージにあたっては、利用者のカルテから利用者の身体の状況をよく見て、その人に合ったきめ細かい治療を徹底して行っています。外部のマッサージ治療院ではそこまでやってくれないでしょうから、やはり評判がよいのだと思います。その意味で、社内にマッサージルームを設置して本当によかったと思っています。